

被爆80周年 核も戦争もない平和な21世紀に

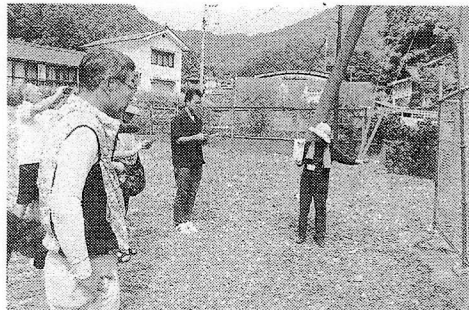
原水爆禁止世界大会

～広島・長崎大会の分科会などから～

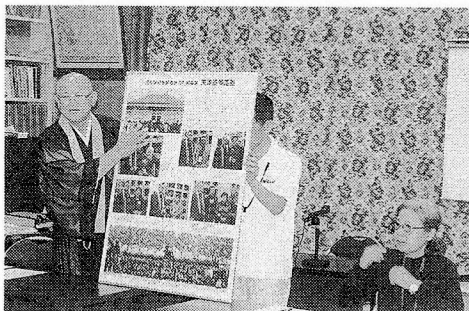
広島大会「フィールドワーク」◆安野発電所への中国人強制連行・被爆の歴史を歩く 中国人労働者の被ばくを知る

5日、広島県安芸太田町で、「広島安野・中国人被害者を追悼し歴史事実を継承する会」の川原洋子事務局長の案内でフィールドワークが行なわれた。

1941年12月8日のアジア太平洋戦争の開戦に伴い、日本では成人男性の多くが徴兵され、労働力が不足していた。そこで、日本政府は42年11月27日に「華人労働者内地移入に関する件」を決定し、翌年より、中国人の日本への強制連行を開始した。



↑川原洋子さんの案内で安野発電所をフィールドワーク。↓追悼法要を行なった善福寺の藤井住職が、中国人労働者について語った。



件まで発生したことで、中国人19人が国防保安法違反と傷害致死事件の容疑者として広島市内に送検された。そして、45年8月6日に、そのうち2009年、西松建設

国したが、14人の被爆者は、原爆症による体調不良や後遺症に苦しみ、補償もなくそのまま放置されていた。

日本各地135カ所で危険な重労働に従事した人数は約4万人といわれており、敗戦までに約7000人が死亡した。安野発電所は、水の落差を利用して発電する水そのために逃亡や殺人事

が「深甚なる謝罪」を行ない和解金を支払うことで中国人360人との間に和解が成立。翌年に、「安野中国人受難之碑」が建立され、今も追悼行